

北京留学記

对外経済貿易大学 舟山 貴志

FUNAYAMA Takashi

私は現在中国北京にある对外経済貿易大学に中国政府奨学金生として留学をしています。今回は中国留学体験談ということで、私が初めて中国に来た時から現在の对外経済貿易大学での留学生活について、思った事、感じた事を紹介します。

一、中国留学に至った理由

日本人留学生の中で、私は中国滞在歴が一番長いのではないかと考えています。なぜなら私は日本で中学校を卒業後高校から中国へ留学しているからです。日本には高校から中国へ留学する人は少ないと思います。又、年齢も若かったので日本の友達と同じ学校に行きたくて、自分は中国留学についてはその時あまり本意ではありませんでした。でも今は中国へ留学したらという親のアドバイスに感謝しています。親の観点からすると高校から中国へ行き、将来有望な人材になれるよう早めの留学を考えたのだらうと思います。

そして、あっという間に中学校卒業後中国の高校へと渡ることになりました。場所は中国の東北極寒の地長春です。冬は最低気温 -20°C になることも珍しくないこの場所、みなさんは疑問に思いませんか、なぜわざわざこんな場所で留学するのかと。それは、私が日本人の父と中国人の母の間に生まれたハーフで、母の故郷が長春であるからです。

二、中国の高校での三年間

私は長春で高校三年間を過ごしました。今振り返ってみると、とても有意義な時間を過ごせたと思います。私はここで、たくさんの日本で会えない人達に出会い、中国人の良い所、悪い所、中国の習慣など、全てが新しい刺激でした。結果、中国に来る前は中国に対して不真面目、いい加減等あまり良いイメージを持っていなかったのですが、高校に来てからは周りの中国人の勉強に対する意欲、リーダー意識、団結意識等がイメージと違い自分は驚いた事がありました。たとえば、授業の宿題などはみんな次の日に必ず提出してあり、先生との約束事など忘れていたのを見たことはなかったです。しかし、中国の高校留学で日本と違って、大変だった事も多々ありました。まず、中国の高校で制服というのは日本で言う運動着であるという事です。これに関しては現在、制服と運動着を日本のように分けている中国の私立学校もありますが、まだ全体的に制服というのは運動着というのが大半です。又、中国の高校には部活がなく、朝七時には登校し、夜六時頃まで授業があるという事です。これに関しては当時一番つらかったと今は思います。帰国中、友達に日本の高校では朝八時登校や部活で忙しいということを知って、当時はとても羨ましかったです。

学校が終わるのもとても遅く、夜六時ぐらまで毎日勉強している現地の学生を見

てすごいと思うと同時に、日本の文武両道という、部活の文化もとても良いものだった事もありました。

三、中国への大学留学

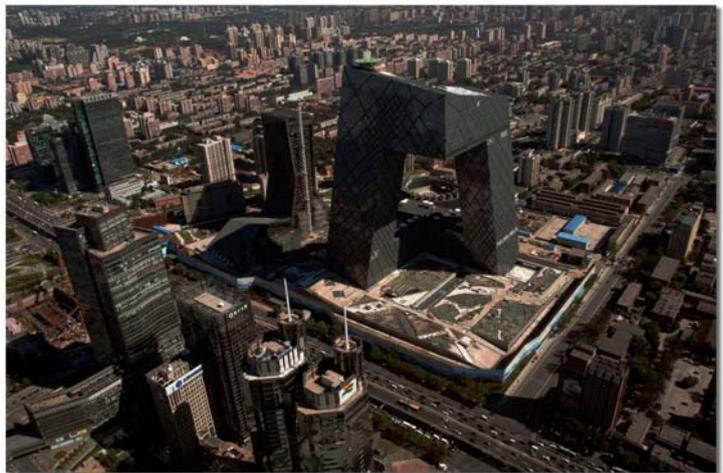
そして、高校三年間というものはあっという間で、三年生の時に遂に進路について悩む時が来たのです。その当時私は高校留学三年間を経て、日本に戻りたいという気持ちがありました。そして、日本の大学へ進学する手段として帰国生入試を受験しようと考えていました。帰国生入試とは海外の高校で卒業したものに資格があるという日本の大学の試験制度です。しかし、当時自分が日本の大学へ行って、その後どうなるかというのを考えてみると、普通の一般的な型どおりの人生を送ることになるのではないかと思い、やはり、中国に留まって、もっと中国について詳しくなる必要があると思い、悩んだ結果中国留学を選びました。

そして、当時中国の大学へ進学するためには、各大学の試験を受ける事が必要でありましたが、当時、日本にいる知り合いの先生から中国政府奨学金を受けてみたらどうだというアドバイスを頂き、中国政府奨学金の選考を受けました。そして、面接などの選考を経て、2010年8月上旬中国政府奨学金合格の通知を受けたのです。通知を受けた時は驚いて、家族みんなに報告してしまったほどです。この奨学金はいわゆる国費留学というもので、とても私にとって光栄なものでありました。そして私の中国での大学留学が始まったのです。

四、北京での大学留学生活の始まり

2010年9月、初めて留学生として北京に入ったときの事を今でも忘れる事ができません。その前に何度か観光やビザなどの所要で来たことは有ったのですが、まさか自分が留学で中国の首都、北京に住むことになるとは想像も出来ませんでした。まず、北京空港第三ターミナルに着き、その大きさ、空港にいる人種の数、全てに圧倒されました。自分はこれからこういう環境で勉強していくのだと考えると身が引き締まる思いでした。そして、空港から学校へ向かうタクシーの中で思った事が、北京の発展の凄さです。長春ではなかった地下鉄も高層ビルも北京には全て有りました。その後実際に地下鉄に乗りました。路線マップを見るとたくさんの未開通路線があり、北京がまだ発展途中なのが良く分かりました。そこから、北京はまだまだ発展する余力があるのを確信しました。

北京の国貿易地区の高層ビル



対外経済貿易大学の校舎(誠心楼)



そして、学校に着いた時の第一印象は、留学生が多いということです。これは後に分かったことなのですが、対外経済貿易大学自体の面積は北京の大学の中で小さい方に属しますが、大学が留学生教育に力を入れており、全学生数約一万一千人のうち20%弱が留学生で、とてもグローバルな学校です。そのため語学留学で来た人は中国語以外にもたくさんの言語を勉強できるというメリットがあり、人気があるようです。

そして、留学生の登録を済まし、私の大学留学が始まったのです。

五、授業

大学の授業については、今現在(二年生)までの感想を紹介させていただきます。まず、一年生を振り返ると、前半は中国語の授業が半分を占め、その他中国文化などの授業がありました。後半から、ミクロ経済学が入り、専門的な授業が始まります。そして二年生前半は、マクロ経済学、管理学原理などを勉強しました。授業はすべて中国語で、授業は留学生だけで行う形式をとっています。専門科目が多くなると、中国語以外にも覚える事がたくさんあり、テスト前は寝ずに勉強したこともありました。そして、今現在の二年生後半からは、専門授業が増え、財務会計、貨幣銀行学、応用統計学、営業学原理、中国対外貿易史などを勉強しています。今は専門授業が増え、更に難しくなっているため、今まで以上に勉強に励みたいと思います。



授業の様子

六、生活

正直北京での生活は長春ほど大変ではありません。なぜなら、北京には和食料理屋が多く、その中で日本人が経営しているのも多いからです。その他、日系のデパートとしてイトーヨーカドーが北京に幾つか有り、セブンイレブンも結構見かけます。そのため日本の物は結構揃います。

学校の周りにも中華料理や韓国料理、また肉まんのお店など色々あるので食事の面では苦になりませんでした。私は学校の寮にずっと住んでいます。寮は来た当初二人一部屋の寮に住んでいましたが、二人二部屋の寮に空きがあり変えてもらい、現在は一人で一部屋を使い、トイレ、シャワーは二人で共同という寮に住んでいます。両者特に住んでいて不満はなかったのですが、前者はトイレ、シャワーは階層共同だったので、冬場などは肌寒く感じました。後者は二人で一つのトイレ、シャワー共同です。

が、共同スペースの中に有り、とくに寒く感じることはなく満足しています。現在の寮ではIHなどのクッキング道具などもそろっていて、食材を買って作ったりすることもできます。

七、これから留学する人へ

留学は人の視野を広げ、留学で得られるものは外国語だけでなく、その国の習慣、思想、友達等沢山あります。そのどれもが自分の人生の中で忘れがたい記憶になることは間違いありません。又、最近では日本の留学希望者が世界的に見て少ない等のニュースを良く見ますが、逆にこれがチャンスなのではないでしょうか。将来の就職の為でも良いし、自分の夢の為でも良いし、今留学希望者が少ないのを逆手にとって留学は一つの大きなアピールポイントになると私は思います。私自身留学はとても良いものだと思います。自分がもし留学をしてなかったら、今の自分とは全く違う感性だったと思いますし、留学のおかげで色々成長できました。留学は若い時にしたほうが良いです。留学について興味のある人は、できるだけ早く夢に向かって留学の第一歩を踏み出しましょう。